

「関西国際空港」は、1994年9月4日に開港しました。

その前史は、伊丹(大阪国際)空港をめぐる問題にさかのぼります。

1960年代、わが国が高度経済成長に突き進むなか、

大阪・関西の航空輸送需要はかつてない伸びを示し、

伊丹空港にも1964年にはジェット機が就航、

1970年には3,000mの滑走路が整備され機能が拡充されていきました。

その一方で、周辺地域では急速に騒音公害が深刻化しました。

住民から夜間の飛行差し止めを求める訴訟、

空港廃止を求める公害調停が提起されるなど大きな社会問題となり、

これに伴い航空機の発着時間帯が制限されるなど

空港機能にも大きな制約が課せられる事態となっていました。

増大する航空輸送需要への対応と伊丹空港の騒音をはじめとする環境問題。

この課題を同時に解決すべく、航空審議会など国を挙げての検討の結果、

1974年、全く新たな国際空港を建設することとなり、その位置は「泉州沖」と決まりました。

その後、慎重な地元協議や特別法の制定などを経て、

新空港の事業主体として1984年に設立されたのが関西国際空港株式会社です。

関西国際空港は、伊丹空港の環境問題の経験を踏まえ

沖合5kmの人工島に建設することとし、事業の推進にあたっては、

立地場所の選定経緯から地元と深刻な対立に陥った成田国際空港の反省に立ち、

地元との綿密な協議調整が重ねられました。そして、

- 公害のない、環境に配慮した空港
- 運用制限のない24時間空港
- 国際線・国内線の乗り継ぎが便利で多様なアクセス手段のある空港

を目指して整備されました。

関西国際空港は、2010年に開港16年を迎えます。

目次

社長からのメッセージ	3
ビジョン	5
特集 国際貨物ハブ空港として ① 多様化・高度化する 物流ニーズに応える	7
特集 アジアのゲートウェイとして ② あらゆるお客様の満足を追求する “KIX”へと進化する	11
特集 多様な生物との共存 ③ 環境を創造し、 自然と調和する空港を目指す	13
関西国際空港のCSRの方針	15
関西国際空港のCSR活動の全貌	17
CSR活動報告	
安全・安心な空港の実現	21
お客様第一主義の実践	25
環境保全・創造への取り組み	27
地域社会との共存共栄	33
人権の尊重と働きやすい職場環境の実現	35
CSRマネジメント	37
第三者意見	39
関西国際空港の概要／関西国際空港株式会社の概要	40

編集方針

関西国際空港株式会社(KIAC)では、2001年度から環境報告書「エコ愛ランドレポート」を、2008年度からは報告内容を企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)に拡大し、さまざまなステークホルダーの皆様へ発信させていただく「CSR報告書」を発行しています。

3回目の「CSR報告書2010」では、関西国際空港のビジョンとして重要な「国際貨物ハブ空港として」「アジアのゲートウェイとして」の取り組みと「多様な生物との共存」を特集しました。また、空港におけるCSR活動についてはイラストを用いてわかりやすく説明するよう心がけました。

■参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」
環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

■報告対象範囲

関西国際空港株式会社の活動を中心に、一部においてグループ会社の活動について報告しています。これに加えて、環境活動に関わる部分については、「関西国際空港エコ愛ランド推進協議会」などを通じて連携している関西国際空港内の事業者の方々の活動も含めています。

■報告対象期間

2009年度(2009年4月～2010年3月)の活動を中心に、一部対象期間前後の活動についても報告しています。

■発行

2010年8月

■お問い合わせ

関西国際空港株式会社 コーポレート・コミュニケーションセンター
「CSR報告書」編集事務局
TEL: 072-455-2155 FAX: 072-455-2058
〒549-8501 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 関西国際空港会社ビル

